

2020年度 日本臨床検査医学会 第1回理事会（現理事・監事）議事録

日 時：2020年3月28日（土）12：00～13：00

場 所：日本臨床検査医学会事務所 東京都千代田区神田小川町 2-2（〒101-0052）

出席：矢富 裕理事長、山田俊幸副理事長、村上正巳総務理事、古川泰司会計理事、東條尚子庶務理事
▽谷直人、吉田 博、各理事（7名）

高木 康、監事（1名）

出席（リモート）：宮地勇人、古田 耕、長沢光章、下 正宗、藤井 聡、萱場広之、東田修二、通山 薫、
松永 彰各理事（9名）

福武勝幸 監事（1名）

欠席：木村 聡、松尾収二、大西宏明、柴田綾子、田中靖人、小柴賢洋 各理事（6名）

I 開会

3月26日に、新型コロナウイルス感染拡大の影響により東京都から外出自粛要請が出されたことを受け、学士会館での集会を取りやめ、理事会、定時社員総会とも、学会事務局への出席は都内在住の出席可能な理事・監事とし、その他の理事、監事は Zoom を利用した web 会議での参加での開催としたことが伝えられ了承を得て会議は進められた。

そして、次の物故者を偲び黙祷が捧げられた。

2020年2月1日 名誉会員 松原藤継先生（金沢大学名誉教授 享年94歳）

その後、矢富裕理事長から挨拶があり、理事会（現理事）の議事を進めた。

II 報告事項

1. 支部報告

各支部の終了した例会・総会・地方会、そして例会・総会・地方会の予定、支部役員の交代、支部での検査関係の教授、部長、技師長の退任・新任等について報告があった。

2. 委員会報告（東條尚子 庶務理事）

2019年度の各種委員会報告がなされた。

3. 第66回学術集会報告（岡山2019/11/21(木)～11/24(日)、通山 薫 会長）

2019年11月21日（木）～24日（日）岡山コンベンションセンター・岡山シティミュージアム（岡山）において、通山薫会長（川崎医大）のもと、テーマ「臨床検査からメッセージを発信しよう！」として開催された下記の主な報告、収支見込みが報告された。

・一般演題数：343 演題（口演 275；ポスター68）

・参加者数：合計 1,627 名（一般会員 1,007 名、非会員 457 名、大学院生 60 名、学部生 24 名、招待者 79 名）

・特別企画：日本医学会連合フォーラムとして日本病理学会と共催シンポジウム、学生主体参加型 RCPC Challenge。

・情報交換会：日時：11月23日（土）19：15～21：00、会場：ホテルグランヴィア岡山、参加者数（有料 234 名、招待者約 60 名）

4. 第67回学術集会報告（岩手2020/11/19(木)～11/22(日)、諏訪部章 会長）

2020年11月19日（木）～22日（日）に、アイーナ（いわて県民情報交流センター：盛岡）において、諏訪部章会長（岩手医大）のもと、テーマ「人工知能（AI）時代の臨床検査」として開催予定であり、AI と臨床検査に関する特別講演、教育講演、シンポジウム、AI 検査室の設営、特別講演、教育講演、学会共催シンポジウム、委員会企画などを企画中であることが報告された。

5. 第68回日本臨床検査医学会学術集会報告（富山2021/11/11(木)～11/14(日)）（東條尚子 庶務理事）

2021年11月11日（木）～14日（日）に、富山国際会議場、富山市民プラザにおいて、北島勲会長（富山大）ならびに、仁井見英樹副会長（富山大）のもと、テーマ「学術的な臨床検査医学のおもしろさを広げよう！」とする予定であること、ポスター素案、4月より運営組織を立ち上げて活動を開始予定であることが報告された。

6. 専門医関連事項について（山田俊幸 専門医担当理事）

日本専門医機構に提出していた臨床検査領域カリキュラム制整備基準について、機構から指摘があった箇所を修正して、3月23日に、再度提出したこと、2016年度からの機構専門医の更新状況、2021年度からの専門研修プログラム登録および専攻医登録のスケジュール等について報告された。

7. その他

特になし。

Ⅲ 審議事項

1. 2019年度事業報告・会計収支決算報告について

事業報告（東條尚子 庶務理事、矢富 裕 理事長）

・事業報告書、貸借対照表、損益計算書、監査報告書が提示され、事業報告については東條尚子庶務理事から会議、会員数、関連団体行事、経過及び実績、活動、各種委員会活動報告、対処すべき課題として学会の活性化、専門医ならびに管理医の養成そして倫理観の向上等の報告があった。

会計収支決算報告（古川泰司 会計理事）

・会計収支決算報告については、古川泰司会計理事から報告、説明があった。
一般会計については、2019年度の当初予算と補正予算と決算報告を記載している。
収入は、予算より少ないが、支出が押さえられたため、収支差額が260万円ほどとなった。
当初、特別会計から一般会計に300万円の補填を予算立てしていたが、第65回学術集会から500万円超の返金があったこともあり、その補填は必要なく実施しなかった。
特別会計については、会員マイページ費用として500万円を計上していたが、会員マイページを委託した会社は、初期費用がなかったため、データ移行作成費と会員へのID、PW通知送料の100万円弱の費用と押さえられた。
アジア交流基金は、ASCPaLM会費のみの支出であった。
学会賞基金は、若手研究者奨励賞を通常の1名ではなく3名選出したが、学術賞は対象者なしであったため、学会賞副賞の支出が予算より少なかった。
第65回学術集会会計報告は、既に理事会で報告済みであるが、2019年度に係る定時社員総会で、2019年度会計報告と第65回学術集会会計報告の承認を得たうえで合算して税務申告する。
高木康監事より、2019年3月2日に学会事務所で会計監査を行い、事業報告、会計書類の確認をし、理事職務執行、会計報告書類の記載は合致しておりの確であると監査報告があり、承認された。

2. 2020・2021年度役員について（矢富 裕 理事長）

定款第6章 理事および監事（選任）第28条3「理事長は、理事および監事の選任を定時社員総会の決議に諮る場合、理事および監事選任議案を作成して提出しなければならない。」により、2020・2021年度の理事候補者として、2018年度就任で選挙によらず重任可能な理事の3名および2020年度就任の7名、支部から推薦された支部理事7名、次期理事長予定者より推薦された指名理事4名、監事候補者1名が提示され、承認された。

3. 臨床検査専門医試験費用の取扱いについて（矢富 裕 理事長、古川泰司 会計理事、東田修二

これまでは、試験実行委員長が個人口座を開設し学会から200万円が振り込まれ、ここから種々の経費（会場代、印刷代、委員の交通費、弁当代など）を支払う仕組みであったが、東田修二臨床検査専門医試験実行委員長から、銀行口座開設が難しくなっていること、所属部署での負担が大きいことから、口座開設、支払等の事務作業について、学会事務局にお願いしたいとの要望があり、可能な範囲で事務局が行っていくこととなった。

